

# 山城ガールむつみの出陣のススメ「いざ、次浦八郎常盛館へ！の巻」

多古町には次浦城という

お城もありますよ♪

高い土塁と深い空堀が現地にきれいに残っています！

## 次浦八郎常盛館

次浦八郎常盛館と呼ばれる城館は、周囲の地形を削り出して館を造営したと思われ、現地には雛壇状の平場が残っています。地面を掘り込んで掘り鉢状にした掘り込み式の城館ともいわれ、特徴的な様相となっています。

次浦八郎常盛は千葉常兼の弟粟飯原五郎家常の4男とされますが生没年等の詳細は不明です。常盛は源義家に従い、後三年の役に出陣し武功を挙げたといえます。

次浦氏は詳細は不明ながらも、南北朝期の金沢文庫所蔵の称名寺文書等にその名を見ることができます。鎌倉幕府滅亡時には、次浦氏が次浦の地から馳せ参じ、鎌倉幕府方として戦い戦死したことがわかっています。

その後も次浦氏の名が文書から確認できることから、次浦氏は南北朝時代、戦国時代も次浦を拠点として武家として存続していたことがわかります。

次浦八郎常盛館の平場。現地に行くと、かなり広さを感じます。雛壇状の平場も確認できます。



## 千田親政と結城浜の戦い

源頼朝は治承4年(1180年)に伊豆国韮山で挙兵するも、続く石橋山の戦いで敗れ、海路を安房国へ逃げました。そして、安房に着いた頼朝は安達盛長を使者として、千葉常胤に協力を要請しました。もとから頼朝とゆかりの深かった常胤をはじめとする千葉一族は、頼朝に味方することを明らかにしました。そして、常胤は、子の胤頼と孫の成胤に下総国目代の館を急襲させました。

これを知った千田親政は、内山館(匝瑳市)から千葉氏を討伐すべく、千葉に向かって出陣したとされています。千葉一族は結城浜(千葉市)にて、親政の軍勢を迎え撃ちました。そして、結城浜の戦いは千葉一族の勝利に終わりました。敗れた親政は、次浦の館に逃げ帰ったとされます。その後、親政は源氏方に捕らえられ処刑されたと京都市に落ち延びたとも伝わっています。

## 次浦城とは？

次浦八郎常盛館の東方、栗山川に突き出した台地上に次浦城があります。

土塁、空堀、虎口などが良好に残り、戦国時代の城の姿を楽しむことができます。

次浦城と次浦八郎常盛館との関係は定かではありませんが、千葉一族次浦氏が次浦の台を広範囲にわたって領していたと考えられます。周辺には馬場などの地名も残り、次浦城を中心に集落が形成されていたと想像できます。

次浦城に残る土塁。  
ぜひ次浦城にも行って見てね♪



## 矢指塚

次浦八郎常盛館近くの山中に、「矢指塚」と呼ばれる塚があります。これは常盛が後三年の役に源義家に従軍して東北へ凱旋に行き、凱旋した際に残った矢を埋めたとも、義家が前九年の役(1051-1062)で勝利して凱旋する際に、上総の海岸から矢を一本ずつ埋め、ここでちょうど100本になった記念の塚だとも伝わっています。

## 千田庄と千田(藤原)親政

千田(藤原)親政は千田庄領家として、下総国に下向していました。親政の妻は平清盛の妹であり、娘は平重盛に嫁ぎ、壇ノ浦で非業の死を遂げる平資盛の母になります。まさに平家一門であり、平家政権中枢を担う人物だったと思われます。

親政の居館は内山(匝瑳市)と次浦にあったと伝わっています。このことから、次浦八郎常盛館の前身は親政の館とも推察されています。結城浜の戦いで敗れた親政は次浦の館に逃げ帰ってきたとされています。まさに、その逃げ帰った館が次浦八郎常盛館と伝わるこの場所かもしれません。歴史ロマンですね。

歴史&山城ナビゲーター・山城ガールむつみ

山城イベントや歴史イベントを開催。

歴×トキ QR 千葉城郭保存会副代表・三浦一族研究会副会長

多古、匝瑳城郭保存活用会アドバイザー

SNSは「山城ガールむつみ」で検索！

HPは<https://www.rekitoki.com/>

